

# 訪問看護ステーション 連絡協議会だより

## 第24号

発行年月 2012年9月  
 発行所 岡山県訪問看護ステーション  
 連絡協議会  
 〒700-0805 岡山市北区兵団4-39  
 岡山県看護研修センター3階  
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681  
<http://okayama.houmonkango.net/>  
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp  
 発行責任者 石本 傳江

猛暑の続く中、会員の皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じます。私ごと、山谷前会長の後を受け、7月1日就任しましたが、未経験領域への取り組みで、皆様方のご支援を受けて、現状把握と課題の抽出に努めているところです。

さて、超高齢化社会を目前とした来年度の医療計画策定にむけて、国は「在宅医療に係る医療体制の充実・強化について」を特別に取り上げており、訪問看護へのニーズと期待の大きさが示されています。

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の歴史を見ますと、今その基盤を整え、活動を強化する時期を迎えており、次のような重要課題が挙げられます。

1. 協議会の社会的組織基盤の確立

社会に認証される組織団体としての地位確立が求められ



### 会長就任ご挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 石本 傳江

ています。このことは、他県の協議会も同様な悩みを抱えており、日本看護協会は協力団体として何らかの方向性を9月に示すと表明しましたので、それを待つて進めます。

2. 訪問看護の専門性の向上

今後は訪問看護を担当する人材養成のための研修事業に加えて、訪問看護の専門性の整理と看護開発が求められます。残念ながら岡山県には地域看護や家族支援等の専門看護師および訪問看護認定看護師はいません。在宅看護の専門看護分野もできたので、資格取得に向けてチャレンジをし、訪問看護をリードする人材育成が重要です。

これらの活動を推し進めるため、皆様のご協力とご忌憚のないご意見をお願いし、ご挨拶と致します。

## 新設のステーション紹介

### 訪問看護ステーション なかしま

管理者 藤本 史

平成23年11月に津山市で開設しました。在宅にいる利用者さんは病院に入院している時とは表情が違い、とてもイキイキとその人らしく生活をされています。在宅のキーワードは「生活」や「生きる」などの日々の連続的な営みの中にあるように思います。その人らしく生活できるように援助していく努力をしていきたいと思っています。

訪問させていただくたび訪問看護の魅力や楽しさを発見しています。利用者さんが今までしたくても出来なかった事が出来るようになる事が、私たちのやりがいにつながっています。

まだまだ未熟なステーションですが、地域の方に支えられながら地域のニーズに応じた良質な看護を提供できるように頑張っていきたいと思っています。

### 訪問看護ステーション 華心

管理者 福田 貴通

「当ステーションは、理念をもとに(有)ファミリーサポートセンター内に、平成23年9月に開業いたしました。開業に至るまでたくさんの方にご指導頂き、また支えて頂き、スタッフ一同感謝しております。

訪問看護を行うにあたり、幅広い知識、経験、入院時より深い関わり、そして何よりも人を大切に思う気持ちが大切であると感じておりました。その為開業前に研修やご指導を頂き開業に至る事ができました。

現在は、様々なステーション様と連携と取らせて頂くチャンスにも恵まれ諸先輩方の姿を見て、日々勉強と思ひながらスタッフと頑張っております。

今後も、利用者様、ご家族、また連携を取らせて頂く、医療機関、事業所の皆様に信頼して利用して頂けるように、スタッフと一緒に成長していきます。

また、職場環境もスタッフが働きやすく、常に利用者様と同じ目線に立ちながら、責任感を持ち成長できる環境づくりを目標にしております。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

# ステーションからのリレーだより

## 「独居の利用者様を在宅で支える」

水島虹の訪問看護ステーション 管理者 高瀬 香織

当ステーションは、倉敷市水島にあり水島臨海工業地帯の中枢部を有する人口密度の高い地域です。

約4000人が公害患者として認定されるに至った都市であり、呼吸器疾患の方でNPPVやHOTをされている方が多いのが特徴的です。

また、独居世帯が多く昨年は利用者の62%が独居でした。

ご家族の支援を望めない多くの独居の利用者様を支える中で、多職種が密に連携し、地域全体で支えることが重要だとあらためて実感します。

独りでの在宅生活は、もう難しいのではないかと諦めかけた方の一人に、NPPV療法をされている、認知症の高齢者の方がおられます。NPPV療法が毎日きちんと出来ない事は命にかかわることです。ご本人の家で生活したい思いを叶えたいものの、やはり訪問看護だけでは支援できることが限られます。

訪問看護や訪問診療、ヘルパーの訪問回数を増やし（ヘルパー3回/日、訪問看護2回/日）、呼吸状態の異常を早期発見できるよう、医療機器の担当者に力をかり、関連職種全員で知識を高め、お互いの報告や相談に24時間体制で速やかに対応し、連携を強めたことで在宅生活の継続が可能となったこのケースは、在宅医療・介護の醍醐味だなと感じます。

## 「出会いを大切に…感謝の気持ちを忘れない。」

訪問看護ステーションかえで 管理者 小林 香里

私たちの訪問看護ステーションかえでは、倉敷芸術科学大学のふもとにある武田病院の、3階の1室に事業所を構えています。最近ではリハビリにも力を入れるようになり、技師の配置も整ってきました。

この夏・私が訪問看護を始めてから12年間利用者であった方が亡くなりました。名簿の1番目でもあり感慨深いものがありました。振り返りますと、ほんとにたくさんの方と出会いがありました。ご利用者やご家族だけではなく、訪問看護を通じて、養成研修時代の仲間や実習先でお世話になった訪問看護師さんは今では私の師匠となり長いおつきあいをさせていただいています。つらい時期もありましたがすべての出会いが私の支えとなり、実となり、訪問看護を続けられた原動力になっていると思います。今後も前向きに笑顔で接していき、ご利用者やご家族に頼りにしていただけるよう、常に感謝の気持ちをもって訪問看護を続けていきたいと思っています。



直島訪問は一日がかりです。そんな時猫ちゃんとお会いしました。ほのか 三木

## 「利用者の声」

### 工夫で楽しく『在宅介護』

合田 恵子

両親ともに訪問看護を得て、在宅介護による終末期をほぼ希望に添った形で過ごす事が出来た。父の時は勤務しながらの介護だった。看護師さんとの介護連絡ノートに結局私は、一度も記入せず申し訳ない思いだ。せめてもと必要便利な介護用品はどしどし使ってもらった。父が理想の看護者と縁を持てた幸運で、思いがけなく最高の親孝行が出来た気がする。

父の死後五年。母も同じ訪問看護で幸運だ。父の時の反省を踏まえながら週三日の入浴介助で快適に過ごせた。訪問は一時間ながら密度の濃い看護を受けた。私の医療未熟な部分をフォローしてもらい充実した世話が出来た。楽しく暮らした母娘の六年間は「思い出にせず体験経験を活かさねば」と、日々思う。

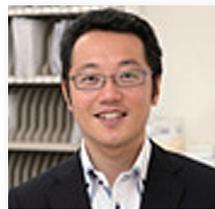
在宅介護の妙にはまった楽しさは格別で疲れ知らず。ひたすら創意工夫のオリジナル介護で邁進した。一番の自信作品は『入浴ベルト』。浴槽からひき上げる時のまわし帯。

その時の母のいい顔が何よりの思い出だ。

## 「マイホーム」

訪問診療 藤井クリニック院長

藤井 基弘



平成23年4月に在宅医療クリニックを開設しました。問い合わせが来ると、まずは訪問看護に依頼をする所から始まります。（実は当院には看護師はいません。）患者さんの住所、周囲の環境、家族背景、病状、どれをとっても同じ事はありません。いつも訪問看護師さんと相談しながら一緒に在宅サポートを行っています。

患者さんが、どんなふうにご覧したいのか？どんなふうに住きたいのか、逝きたいのか？いろいろと納得のいかない思いを胸に抱えながら患者さんは過ごされています。そんな時に頼りになるのが訪問看護師さんです。多彩なキャラクターと経験で患者さんに対応してもらおううちに、いつしか患者さんやご家族さんの顔に笑顔が灯っていきます。おかげ様で笑顔のある訪問診療を行うことができています。笑顔の輪の中に一緒に居られることに心から感謝をしています。

患者さんにとって「マイホーム」はとても大切な場所です。大切な場所で大切な時間を過ごせるように、私たち在宅サポーターもできる限りの応援をしたいと思っています。訪問看護師さん！これからもよろしくお願ひ致します!!!

いつも心に太陽を (\*^0^\*) / ~~~

## 接遇を受講して

あしもり訪問看護ステーション 管理者 丹下 恵子



中谷裕子先生を講師にお招きして「接遇」の研修会に参加しました。先生のお話の中から解ったことは、看護サービスの中では看護スキルと接遇スキルがあり、接遇スキルのレベルの程度で利用者が受ける印象が変わるといことでした。そして接遇スキルを向上させるために必要なことをユーモアを交えて、楽しく教えていただきました。時にはお互いで実際に言葉や表情を使って体験もしました。言葉コミュニケーションは大切ですが、非言語コミュニケーションも大切で、その中でも肯定的ストローク（相手がもらって気持ち良くなるもの）が重要となることや、肯定的ストロークを出したつもりでも受け取る側が否定的に受け取ることもあるなど難しい面がありますが、肯定的ストロークがいつも出せるように笑顔と態度と言葉を大切にこれからも訪問していきたいと思いました。

とても楽しい講義で、自分自身の日頃の人への関わり方を振り返る大変よい機会になりました。ありがとうございました。

## 糖尿病患者の看護の研修会に参加して

児島中央訪問看護ステーション 管理者 服部 南  
(研修委員)

平成24年8月18日(土)、倉敷保健医療センターにて糖尿病患者の看護の研修会が開催されました。現在も現場の一線で活躍されております糖尿病看護認定看護師の藤原先生と笹邊先生が午前中に糖尿病の基礎知識についての講義、午後からは、フットケアについて実技がありました。最新の糖尿病の知識と具体的な在宅での注意点を中心に講義いただき、実技では、肥厚した爪の爪切りの方法や普段何気なく使っていたニッパーや爪やすりの使い方、そして電動やすりの使用を教えていただきました。また、足浴の重要性も事例を交えて話してくれ、私たちが日々ケアしていることの重要性を再確認することができました。

糖尿病患者は年々増加しております。合併症予防とセルフケア指導を行い、QOLを低下させないようこれからも指導やケアを行っていきたいと感じました。一緒に参加して下さいの皆様、関係者の皆様ありがとうございました。



## 「全国訪問看護事業協会通常総会・都道府県連絡協議会に参加して」

訪問看護ステーションくじば 管理者 仕田原 明珠

H24年6月25日、東京で開催されました。総会、その後「ダブル改定をどうみるかー訪問看護の未来にむけて」と題して川淵孝一氏の特別講演がありました。地域医療の充実、精神障害者社会復帰支援の方向、2025年問題、胃ろうの問題などがありました。手塚治虫氏の著書、「ガラスの地球を救え」から引用された文章が、頭に残っています。1989年の著書にもかかわらず、すでに「日本人は、来世紀には平均年齢が90歳を超え、80歳までは働かざるを得ないでしょう。若者の数が極端に減って、老人大国になるからです。精神障害や老人ボケの人たちは、増え続けるでしょう。…」と、漫画のアトムの世界でもですが、手塚治虫という人のすごさを感じました。

午後からは、都道府県連絡協議会交流会があり、診療報酬・介護報酬同時改定による新たな事業展開についてのアンケート結果報告やディスカッションがありました。

今回の改定でおおむね48.8%が増収、15.5%が減収です。減収要因は、リハビリ職の訪問や90分の訪問単価の減でした。

ブロック会では、地域密着サービスについてどのように推進していくかという討議がありました。岡山県は2ステーションが、複合型を考慮中というだけでした。全国でも11.2%くらいしか実施予定がないようです。ステーションの多機能化・規模の拡大・地域の中で基幹になる為にも必要なサービスになるといわれましたが、私的には人材不足もあり、なかなか実施できないのではないかと感じました。その後、中国・四国ブロックでは、ネットワークづくりのために、連絡交流会を高知で10/7(日)に実施予定です。他県との交流も必要になると感じました。

参加させていただきありがとうございました。

## 『マッチングプラザ2012に出展して』 広報委員長 藤原 洋子

平成24年6月13日(火) 14日(水)に介護サービス博覧会おかやま〜マッチングプラザ2012〜が開催され、広報委員は、訪問看護のPRのために「岡山県訪問看護ステーション連絡協議会」ブースに出展しました。各分野のブースもあり、2日間活気あふれるものでした。

本年度は、血圧測定、アロママッサージ(上肢)、血糖測定、看護協会の協力を得て、骨年齢測定を行いました。アロママッサージにおいては、マッサージ施術者の手が空かないくらい好評で、マッサージを受けた方が、癒された表情をされるのが印象的でした。骨年齢測定や血糖測定も盛況で、自身の健康状態を再確認され、喜ばれる人、落ち込む人などおられ、相談や、アドバイスもさせていただきました。中には、昨年来場された一般の方もおられ、毎年こうしたPR活動をすることで、訪問看護の活動も徐々にではあるが、認識されているように感じました。H23年9月に開設された、訪問看護コールセンターおかやまとタッグを組んで今後も利用者さんが安心した療養生活が送れるよう、お手伝いして行きたいと思います。



# 『訪問看護コールセンター おかやま』報告

徳永 千栄子

「訪問看護コールセンター おかやま」が開設されて、1年を迎えようとしています。

平素より、いろんな情報提供にご協力いただきありがとうございます。日々、感謝しています。

7月末現在、電話件数は11ヵ月間で、延べ332件、連絡元の内訳は、本人・家族からが43件、医療機関から43件、介護保険関係機関から63件、訪問看護ステーションから145件、その他38件です。

本人・家族からは、ひとり暮らしの母を夜間も見てくれるシステムはないか、がんになっても最後まで家で看とることができるか、食べなくなったので毎日点滴にきてほしいなど、また、介護者のお嫁さんからのつらい思いを聞いたり、がんになった本人からの不安に耳を傾けることもありました。

アルツハイマーの妻を自宅で支えているご主人から、訪問看護の利用についての問い合わせがあり訪問看護導入に結びついた事例は、のちに会ったケアマネさんから「先日なくなられました。ご主人から徳永さんに相談したことをよく聞きましたよ。とても喜んでおられました。」と聞き、顔が見えない人との縁の暖かさを感じることができました。また、長期入院から在宅へ連れて帰りたいという息子さんからの相談、息子さんの思いが強く納得されるまでの半年間の関わりを通して、家族の在り方について考えさせられました。

医療機関では、MSWから訪問看護ステーションの情報提供依頼や県外からは、退院後岡山に帰るので訪問看護ステーションを探してほしいという依頼もありました。

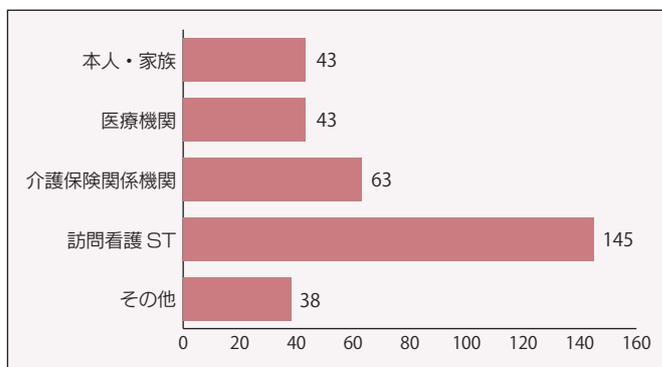
介護保険関係機関では、ケアマネから関わっている地域外の訪問看護ステーションを探してほしいという依頼があり、一度紹介してもらおうとステーションと顔の見える関係になって、ネットワークが広がっていくですと言われました。

一番多かった訪問看護ステーションからは、運営・報酬に関する問い合わせがほとんどで、4月5月の報酬改定直後は、大変な様子が電話の向こうから伝わって来ました。

「訪問看護コールセンターおかやま」は、県の委託を受けて2年間の訪問看護支援事業として立ち上がった事業です。全国訪問看護事業協会の研究事業担当者の川村氏は、報告会で「新しい事業に取り組んだ成果はすぐには出ない。長い年月がかかる。ひとつの事業の力は弱いかもしれないが、社会の中でつながったネットワークは強く、線から面へと広がり大きな力となるはずですよ」と言われました。

これからの在宅療養を支える大きな力は、訪問看護です。その訪問看護を支えるのは、訪問看護ステーションの皆さまです。その皆さまを支えるものは何でしょうか・・・

引き続き来年度からの事業が、より在宅医療を支える訪問看護の力になるにはどうすればいいのか、関係者は次のステップに向けて、試行錯誤しています。



連絡元別相談件数 (H23年9月1日～H24年7月31日)

## 「これでガッチリ地区活動」

理事・倉敷総社地区 地区委員 篠原 淑子

倉敷・総社支部の訪問看護ステーションは、平成23年度25事業所から24年度には29事業所となり急増しました。活動のメインは研修とその際の情報交換や交流会です。研修会参加者を増やすということが大きな課題であったので、研修スローガンとそれを基に一年間の研修計画を作成し、早めに通知しています。また、研修会の参加者がヒロインになれるよう工夫し、必ず意見交換会等を行いました。この交流会とそれにだされた意見は必ず後日各事業所に報告することで、どんな話し合いがされたのか相互にわかり、結果、参加者が増えることに繋がりました。

### スローガン

- ①在宅ケアアドバイザー派遣事業等を活用し質の向上を図りましょう。
- ②多職種連携をより一層図り、訪問看護を広めましょう。
- ③グループワークにより訪問看護事業所間の情報共有や解決法を一緒に学び、連携を深めましょう。
- ④コールセンターを広めましょう。



## 書籍紹介



### 「2012年版訪問看護関連報酬・請求ガイド」

～介護保険と医療保険の使い分け～  
出版：公益財団法人 日本訪問看護財団  
価格：1,500円（税込）  
内容：平成24年度の報酬改定事項も含め、訪問看護関連報酬について分かりやすく解説されています。  
※日本訪問看護財団のHPより購入ができます。



### 「訪問看護お悩み相談室」

平成24年改定対応版  
出版：中央法規  
編集：公益財団法人 日本訪問看護財団  
価格：2,400円（税別）  
内容：300のQ&Aで解決。平成24年の診療報酬・介護報酬改定を反映

## 編集後記

今年は、異常気象で災害に見舞われた地域があり、胸が痛む思いでした。そんな中、ある利用者宅に（左記写真）孔雀サボテンの花が咲いていました。年に1回、夜しか咲かない花です。鮮やかな色で存在感があり、生命力を感じ、あわただしい毎日の中で、心癒されるひと時を味わいました。また、今年は4年に1度のオリンピックが開催され、日本人選手より、感動と勇気とやる気をたくさん頂きました。その気持ちを大切に、利用者様が安心して生活が出来るよう、私たちも笑顔で元気に頑張っていきたいと思います！  
広報委員一同